



# 亀中だより

No.45 令和5年度最終号

令和6年3月21日 文責:岡田

For The Students!



## 「たとえ明日、世界が終わるとしても、 今日私は、リンゴの木を植えるだろう」



Even if I knew that tomorrow the world would go to pieces,  
I would still plant my apple tree.

16世紀に宗教改革で主役となったドイツの神学者で宗教改革者でもあるマルチン・ルターの言葉です。様々な解釈がされていて、中には宗教色の強いとらえ方もあるようです。しかし、ここでは単純に「明日世界が滅びてしまうとわかっていても、諦めずに今日できることをしよう」というような前向きな言葉として、とらえたいと思います。

リンゴの木を植えてから、実際に収穫ができるようになるまで何年もかかります。収穫もできないのになぜそんな無意味なことをするのかといってしまうえば、それまでです。しかし、その場の損得だけで考えるのではなく、リンゴの木を植えるという生産的な活動そのものが人の心に喜びや達成感、希望を与えていくものだ。だからこそ、リンゴの木を植えるという生産的な活動をするんだという意志として、この言葉を受け止めたいものです。

新たな感染症、自然災害、国際紛争…。様々な脅威が次々と降りかかってきた近年、我々の生活は一変するとともに、そのいくつかの事象からは、立ち直る力を学んできました。しかしそれには、とても長い時間がかかることも少なくありませんでした。中学生のみなさんもこのコロナ禍の生活で、そのことが身をもってわかったことでしょう。「リンゴの木を植える」という行為も、「あきらめない心」の表れだと解釈することもできます。たとえ万人が明日、世界が終わるといっても、そうならないかもしれない。だからあきらめずに、今日もまた、リンゴの木を植えるんだ。という強い意志として、読み取ってはいかがでしょうか。

こんな言葉があります。「したい人は10,000人、始める人は100人、続ける人は1人」何かをしたいと思うこと、そして始める人はたくさんいる。でもそれを続けられる人はそうたくさんはいないという意味でしょう。

まもなく新しい年度が始まります。あなたは何を始めますか。そしてそれをいつまで続けられますか…。

令和5年度が終わろうとしています。みなさんにとってどんな一年だったでしょうか。どこの教室にもあなたたち一人ひとりのこの一年間の目標が、掲示されていました。一年前、あなたが目指した姿に今の自分になっているのでしょうか…。掲げた目標は、どれだけ達成されたか、足りなかったところがあるとすれば、それは何なのか。ふり返ってみましょう。達成できなかったからすべてがダメだったというわけではありません。そこから見える次の自分を、はっきりとさせ、令和6年度のスタートを始めてください。一年間ご苦労様でした。

そして保護者、地域のみなさま、一年間亀山中学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございました。アフターコロナといっているのかどうかはわかりませんが、第5類移行とともに、学校では新しい教育活動が動き出しました。コロナ前とは違うところもたくさんあります。しかし、中学生、そして教職員の適応力は大了なものです。生徒会を中心にこの時代ならではの活動を生み出し、形に変えてくれました。令和6年度の亀山中学校もこの生徒、教職員の力を原動力に、よりよい学校を目指して、取り組んでまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。